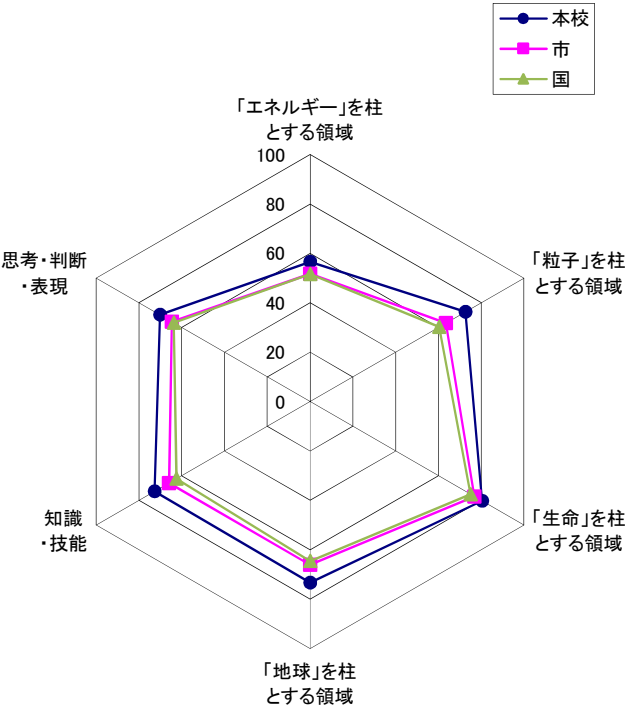


宇都宮市立富士見小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	56.6	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	72.7	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	80.4	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	73.3	66.1	64.6
観点	知識・技能	72.7	65.9	62.5
	思考・判断・表現	70.2	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○本領域の平均正答率は56.6%で、国の正答率を5.0ポイント上回った。 ○「光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ」の平均正答率は37.2%で国の正答率を9.4ポイント上回った。 ●「問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く」の平均正答率は33.6%で国の正答率を1.5ポイント下回った。また、無回答率も11.5%と高い。	・実験結果から分かったことを根拠をもとに文章で表現できるように活動を多く取り入れるようにする。 ・適切な言葉を使って理科的事象を説明することができるように、普段から予想や結果やまとめ、考察を自分で記述する活動を取り入れていく。
「粒子」を柱とする領域	○本領域の平均正答率は72.7%で、国の正答率を12.3ポイント上回った。 ○「一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く」の平均正答率は89.4%で国の正答率を21.6ポイント上回った。 ●「凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く」の平均正答率は47.8%で、国の正答率を8.5ポイント上回ってはいるが、無回答率が5.3%であった。	・自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で、自分や他者の気づきを基に差異点や共通点を捉え、問題を見いだす場面を設定するようにする。
「生命」を柱とする領域	○本領域の平均正答率は80.4%で、国の正答率を5.4ポイント上回った。 ○「提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」の平均正答率は85.0%で、国の正答率を8.9ポイント上回った。 ●「自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く」の平均正答率は78.8%で、国の平均正答率を11.3ポイント上回っているが、無回答率が5.3%であった。	・自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを書くために、整理の仕方を工夫して、互いの結果を比較しやすくしたり、意見交換の場を設定したりして、他者の考えや意見を受け入れ、様々な視点から自分の考えを見直せるようにする。
「地球」を柱とする領域	○本領域の平均正答率は73.3%で、国の正答率を8.7ポイント上回った。 ○「観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」の平均正答率は86.7%で、国の正答率を4.4ポイント上回った。 ●「結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ」の平均正答率は54.0%で、国の正答率を8.5ポイント上回ってはいるが、無回答率が4.4%であった。	・観察などで得た結果を、結果から言えることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつために、提示された資料から数量、変化の大きさなどの特徴を読み取り、自分の考えを言葉で表現する場を確保するようにする。